

科目名		統計・研究法					
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	園田剛之・木村 孝		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	理学療法士として病院に勤務		
対象学科・学年		理学療法学科 昼間部 2年					
授業概要		統計学は、研究で得られたデータを客観的に解釈するために必要な知識である。本講義では、統計学で用いられる様々な分析方法を学ぶとともに、実際に事例を用いて分析体験していく。また文献抄読を通して、研究デザインについても理解する。本講義終了時には、基本的な統計学の知識・技術を身に付け、研究報告を正しく解釈・研究デザインの作成ができ、理学療法の実践と研究活動につなげることを目標とする。					
授業形態	講義： ○	演習： △	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				統計学で用いられる様々な分析方法を説明できる。	
	○	○		○		データを用いて分析を行うことができる。	
	○	○		○		研究計画書を作成することができる	
テキスト・教材 参考図書		15レクチャーシリーズ リハビリテーション統計学 石川 朗 他 監修 中山書店					
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション(統計学の基礎)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	データの尺度・標準偏差と標準誤差Ⅰ				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業資料のまとめを復習しておく。	
	3	相関分析				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業資料のまとめを復習しておく。	
	4	回帰分析				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業資料のまとめを復習しておく。	
	5	差の検定				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業資料のまとめを復習しておく。	
	6	分割表・感度と特異度				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業資料のまとめを復習しておく。	
	7	研究計画について				授業資料のまとめを復習しておく。	
	8	中間試験					
	9	文献抄読(文献検索・発表準備)				検索した文献をよく読みましょう。	
	10	文献抄読(発表準備)				検索した文献をよく読みましょう。	
	11	文献抄読(発表準備)				検索した文献をよく読みましょう。	
	12	文献抄読発表				発表資料を読み込んでおくこと。	
	13	研究計画作成演習				FINERとPICOを考えて文献等を読み参考にしまし よう。	
	14	研究計画作成演習				FINERとPICOを考えて文献等を読み参考にしまし よう。	
	15	研究計画作成演習				FINERとPICOを考えて文献等を読み参考にしまし よう。	
評価方法	(1)国家試験形式に準じた中間テスト及び課題を数回実施する。(2)発表、研究計画書作成及び提出を定期試験に置き換え実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験・中間試験	◎	◎				80%
	課題レポート・発表	◎	◎		◎		20%
履修上の注意		授業形態として前半は動画コンテンツ配信となり、後半が前半の知識を活用して課題に取り組みます。					

科目名	神経内科学Ⅱ											
科目名(英)	Neurological MedicineⅡ											
単位数	1単位		時間数		30時間		担当者		佐藤 利行			
実施年度	2023年度		実施時期		後期		担当者実務経験		医師として病院勤務			
対象学科・学年	理学療法学科 昼間部 2年											
授業概要	神経の構造と病気との関係を理解し、国家試験問題を答えることができる。 学習形態としてPBL学習を用いる（提示した課題に対して学生が学習を進め発表する） 学習の発表より、まとめの講義を実施する。											
授業形態	講義： ○		演習： △		実習：		実技：		※ 主たる形態：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標						
	○	○				神経の解剖学的構造を説明できる						
	○	○				神経の障害部位より出現する病態を説明できる。						
	○	○				各神経疾患の特徴を説明できる。						
	○	○				神経疾患に対する国家試験問題を80%以上解答できる。						
テキスト・教材 参考図書	教科書：医学書院：標準理学療法学・作業療法学 ～専門基礎分野～ 神経内科学（補助教科書）PT,OT基礎から学ぶ神経内科学ノート：医歯薬出版											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	頭蓋内圧亢進症と脳ヘルニア、水頭症					教科書で予習しておく。					
	2	脳血管障害Ⅰ、（疫学、分類、合併症、症状、治療）					まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。					
	3	脳血管障害Ⅱ、診断（臨床症状による）、リハビリ訓練					まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。					
	4	認知症、記憶障害					まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。					
	5	脳腫瘍と外傷性脳損傷					まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。					
	6	神経内科と脊髄疾患（神経内科領域、脊髄損傷）					まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。					
	7	変性疾患、脊髄小脳変性症関連（小脳症状解説）					まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。					
	8	変性疾患、運動神経変性（筋萎縮性側索硬化症など）					まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。					
	9	脱髄性疾患、多発性硬化症					まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。					
	10	パーキンソン病と失調症、不随意運動					まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。					
	11	単神経麻痺、末梢性ニューロパチー、ギランバレー症候群					まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。					
	12	筋疾患、筋炎、筋ジストロフィー症					まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。					
	13	重症筋無力症、周期性四肢麻痺、代謝性疾患					まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。					
	14	神経内科における感染症					まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。					
	15	授業総復習とまとめ					神経概要のまとめの講義より病態の理解を図る。					
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期試験	◎		○								70%
	小テスト	◎		○								20%
	発表	○		◎								10%
履修上の注意												

科目名	老年医学						
科目名(英)	Geriatrics						
単位数	1単位		時間数	30時間		担当者	伊佐 勝典
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験	医師として病院勤務
対象学科・学年	理学療法学科 昼間部 2年						
授業概要	我が国の平均寿命は世界一位となり、高齢障害者が増加している。老年学に関する基 本的な医学知識(病態、診断、治療、リハビリ)の習得を目指す。						
授業形態	講義: ○		演習:	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				加齢に伴う変化(生理機能・運動機能・心理面)について説明できる。	
	○	○				高齢者に多く発症する疾患の概要を理解し列挙することができる。	
	○	○				高齢者に対するリハビリテーションにおける留意点、医療、介護、福祉サービスを説明できる。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	老化と老年病、加齢に伴う変化(生理機能)				教科書での予習。 配布資料の復習。	
	2	加齢に伴う変化(運動機能・精神心理面)、性差医療からのアプローチ				教科書での予習。 配布資料での復習。	
	3	高齢者の定義及び人口動態、高齢者との接し方				教科書での予習。 配布資料での復習。	
	4	高齢者の機能評価、栄養評価、臨床検査評価、薬物療法				教科書での予習。 配布資料での復習。	
	5	高齢者に多い症候と老年症候群				教科書での予習。 配布資料での復習。	
	6	循環器疾患、呼吸器疾患				教科書での予習。 配布資料での復習。	
	7	消化器疾患、神経疾患				教科書での予習。 配布資料での復習。	
	8	認知症と精神疾患、糖尿病と内分泌疾患、血液・免疫疾患				教科書での予習。 配布資料での復習。	
	9	腎疾患、泌尿器疾患、骨粗鬆症と運動器疾患				教科書での予習。 配布資料での復習。	
	10	皮膚・口腔疾患、感染症				教科書での予習。 配布資料での復習。	
	11	耳鼻咽喉疾患・眼疾患、婦人科疾患				教科書での予習。 配布資料での復習。	
	12	高齢者の外科治療、東洋医学・老年学・社会学・経済学からのアプローチ				教科書での予習。 配布資料での復習。	
	13	高齢者の医療、看護、介護・福祉、保健、高齢者のリハビリテーション				教科書での予習。 配布資料での復習。	
	14	高齢者の退院支援、高齢者の在宅支援、人生の最終段階における医療				教科書での予習。 配布資料での復習。	
	15	授業総復習・まとめ				講義全体の資料整理と試験に向けての準備。	
評価方法	定期試験(筆記)を実施する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				100%
履修上の注意							

科目名	理学療法管理学									
科目名(英)										
単位数	2単位		時間数		60時間		担当者		山下 慶三	
実施年度	2023年度		実施時期		後期		担当者実務経験		理学療法士として病院勤務	
対象学科・学年	理学療法学科 昼間部 2年									
授業概要	理学療法士が活躍している現場での業務内容や組織構造を学び、将来就職する分野の選択に繋がるよう具体的な事例を出しながら講義を行っていく。また、臨床現場でのリスクの把握、その管理体制の実際を学び、今後の実習準備に繋げていけるよう演習を取り入れながら実施していく。									
授業形態	講義： ○		演習： △		実習：		実技：		※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
	○	○				各施設での理学療法士の業務内容や組織構造を理解できる。				
	○	○				医療や介護施設での診療報酬体制を理解し、収益構造について説明できる。				
	○			○		病院、施設、在宅などでの対象者に対するリスク管理について理解できる。				
	○			○		診療録や各種報告書などの書類の意義を理解し、模擬ケースを基に記載できる。				
テキスト・教材 参考図書	1)石川 朗 総編：15レクチャーシリーズ理学療法テキスト 理学療法管理学 中山書店 2020年									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	総論 管理、マネジメントとは…理学療法管理学が必要とされる背景					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。			
	2	理学療法士の職業倫理 インフォームド・コンセント、個人情報保護、ハラスメント など					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。			
	3	病院の分類と組織 医療法および関連法規、各医療機関の特徴、組織構造、各種委員会					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。			
	4	介護保険関連施設・その他 理学療法士の活躍する場 施設の特徴・組織構成					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。			
	5	医療保険制度と介護保険制度① 医療保険					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。			
	6	医療保険制度と介護保険制度② 介護保険					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。			
	7	診療・介護報酬と収益構造① 人件費とコストの仕組み					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。			
	8	診療・介護報酬と収益構造② 演習					演習として課題を行います。これまでの資料を参考に して考えてみましょう。			
	9	業務管理 理学療法士の業務の流れ・多職種連携・業務 労務管理					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。			
	10	情報管理 診療記録の意義・本校実習での経過記録について					実習での書類の記載方法について事例をもとに演習 を行います。			
	11	リスク管理 医療、介護におけるコンプライアンス・インシデントとアクシデント①					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。			
	12	リスク管理 インシデントとアクシデント② 臨床実習での事例と対応					事例をもとにレポート記載の演習を行います。			
	13	特別講義① 医療施設での業務管理の実際					講義後に感想または学んだことのレポートを実施し ます。			
	14	特別講義② 介護施設での業務管理の実際					講義後に感想または学んだことのレポートを実施し ます。			
15	まとめ 実習に向けての心構え・理学療法士を目指すにあたって					本講義のまとめを実施します。配布プリントを持参し てください。				
評価方法	(1)授業の中で小テストを数回実施する。(2)レポートを数回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験		○	○		○		70%		
	小テスト		○	○				30%		
履修上の注意										

科目名	評価学Ⅳ						
科目名(英)	Evaluation of Physical Therapy Ⅳ						
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	山口 寿
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験	理学療法士として病院に勤務
対象学科・学年	理学療法学科 昼間部 2年						
授業概要	1. 疾患別の運動機能検査の臨床的意義を知り、実際に施行できる。 2. 基本的な検査・測定方法を疾患別のリスク管理を考慮して施行できる。 3. 理学療法評価結果から疾患別、病期別の臨床推論の方法を知り、説明できる。 4. 基本的な運動療法と基本動作の実施方法と指導方法を知り、実際に施行できる。						
授業形態	講義：△		演習：○	実習：△	実技：△	※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○	○			検査・測定の臨床的意義を知り、実際に施行できる。	
	○	○	○			疾患別のリスク管理を考慮して施行できる。	
	○	○				疾患別の検査測定時の注意事項をを知り、説明できる。	
				○		安全に配慮して実習を行うことができる	
テキスト・教材 参考図書	教科書：1)PT・OTのための臨床技能：羊土社、2) PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介 助・検査測定編						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	OSCE概要説明				教科書の予習	
	2	OSCE：バイタル、関節可動域				教科書予習、動画確認	
	3	OSCE：形態測定、MMT				教科書予習、動画確認	
	4	OSCE：感覚検査、反射検査				教科書予習、動画確認	
	5	PBL課題①：初期患者情報				教科書の予習 Teams課題確認	
	6	PBL課題②：問題点の推定				教科書の予習 Teams課題確認	
	7	PBL課題③：動作分析				教科書の予習 Teams課題確認	
	8	PBL課題④：評価結果のアセスメント				教科書の予習 Teams課題確認	
	9	PBL課題⑤：統合と解釈				教科書の予習 Teams課題確認	
	10	PBL課題⑥：目標設定				教科書の予習 Teams課題確認	
	11	PBL課題⑦：治療プログラム				教科書の予習 Teams課題確認	
	12	PBL課題⑧：実施計画書				教科書の予習 Teams課題確認	
	13	PBL課題発表会				発表準備	
	14	OSCE質問会					
	15	OSCE試験					
評価方法	(1)授業の中で課題を実施する。(2)定期試験(OSCE実技)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	OSCE	○	○	○	○		50%
	授業内課題		○				50%
履修上の注意							

科目名	神経障害 I						
科目名(英)	Neuropathy I						
単位数	1単位		時間数	30時間		担当者	石田 治久
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験	理学療法士として病院に勤務
対象学科・学年	理学療法学科 昼間部 2年						
授業概要	神経系の概要、運動失調症およびパーキンソン病の評価と理学療法について主に学習する。また、その他の神経筋疾患として多発性硬化症、筋委縮性側索硬化症、ギランバレー症候群、重症筋無力症、多発性筋炎について学習する。						
授業形態	講義:		演習:	○	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○		○		パーキンソン病の病態を理解できる。	
	○	○		○		パーキンソン病の評価と理学療法の展開が理解できる。	
	○	○		○		運動失調症の分類とその特徴が理解できる。	
	○	○		○		小脳性運動失調症の評価と理学療法が理解できる。	
	○	○		○		その他の神経筋疾患について理解できる。	
テキスト・教材 参考図書	1)細田多穂:シンプル理学療法学シリーズ 神経筋障害理学療法学テキスト 南江堂 2)尾上尚志・他:病気がみえるvol7脳・神経 MEDIC NEDIA						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	パーキンソン病の病態① 神経変性疾患とは、病態生理、大脳基底核の構造と機能				試験範囲提示 教科書で予習しておく。	
	2	パーキンソン病の病態② 主症状、予後と経過、パーキンソニズム				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	3	パーキンソン病の病態③ 薬物療法、重症度分類				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	4	パーキンソン病の評価と理学療法① パーキンソン病の理学療法の目的と評価				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	5	パーキンソン病の評価と理学療法② 理学療法、運動療法の考え方				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	6	パーキンソン病の評価と理学療法③ 他合併症への対応、事例検討				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	7	前半内容の復習・中間テスト①				前半の内容が理解できているか板書で復習する。 そのうえで中間テストを実施して内容理解度を確認す	
	8	運動失調症の分類とその特徴① 運動失調症の定義、損傷部位による運動失調の分類・鑑別				試験範囲提示 教科書で予習しておく。	
	9	運動失調症の分類とその特徴② 小脳性運動失調症の症状の特徴				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	10	小脳性運動失調症の評価と理学療法① 運動失調症の評価、理学療法の考え方				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	11	小脳性運動失調症の評価と理学療法② 理学療法の実際、合併症への対策				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	12	後半内容の復習・中間テスト②				後半の内容が理解できているか板書で復習する。 そのうえで中間テストを実施して内容理解度を確認す	
	13	国家試験問題				授業内容を踏まえた国家試験問題を選出し、解説を 行う。	
	14	国家試験問題				授業内容を踏まえた国家試験問題を選出し、解説を 行う。	
15	全体復習＋試験対策				試験範囲の説明 試験対策につながるよう全体の復習		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎		○		80%
	小テスト	◎	◎		○		20%
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	神経障害Ⅱ						
科目名(英)	NeuropathyⅡ						
単位数	2単位		時間数	60時間	担当者	松木 直人	
実施年度	2023年度		実施時期	後期	担当者実務経験	病院にて理学療法業務での患者治療など	
対象学科・学年	理学療法学科 昼間部 2年						
授業概要	1)脳血管障害の概念を理解する 2)脳血管障害のMRI画像診断を学ぶ 3)脳血管障害の検査・測定技術を説明し施行できる 4)脳血管障害の急性期・回復期・維持期の理学療法を説明できる 5)脳血管障害のADLの視点を知り、介助用法やリスク管理について説明できる						
授業形態	講義：		演習： ○	実習：	実技： △	※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		脳解剖および脳機能解剖を学び、脳血管障害の病態について説明できる。	
	○	○		○		MRIおよびCT画像の診方を学び、病態把握に必要な基本的な知識を基に説明できる。	
	○	○		○		脳血管障害の検査・測定を選択し、その目的と結果の考察を説明できる。	
	○	○		○		急性期、回復期、維持期における理学療法の目的と役割を説明できる。	
	○	○		○		脳血管障害の運動療法の目的とその方法について説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	1)極める脳卒中の理学療法 エビデンス思考に基づくアプローチ 文光堂 2)症例動画でわかる 理学療法臨床推論 -統合と解釈 実践テキスト- 羊土社						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	授業オリエンテーション 脳血管障害総論				教科書の予習をしておく。	
	2	脳血管障害の評価				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	3	脳血管障害の訓練				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	4	急性期の理学療法① 急性期の病態				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	5	急性期の理学療法② リスク管理・治療計画立案				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	6	回復期の理学療法① 回復期の病態・リスク管理				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	7	回復期の理学療法② 起居動作訓練				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	8	回復期の理学療法③ 歩行の特徴				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	9	回復期の理学療法④ 歩行訓練				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	10	脳血管障害に対するその他の理学療法				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	11	リハビリテーション実施計画書① 概要説明・作成演習				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	12	リハビリテーション実施計画書② まとめ 脳血管障害のリハビリテーション まとめ				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	13	画像所見(CT、MRI、血管撮影)				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	14	国家試験対策 演習問題				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	15	授業総復習・まとめ					
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎		○		80%
	小テスト	◎	◎		○		20%
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	骨関節障害Ⅰ									
科目名(英)										
単位数	2単位		時間数		60時間		担当者		田中知子・藤澤盛生	
実施年度	2023年度		実施時期		後期		担当者実務経験		理学療法士として病院に勤務	
対象学科・学年	理学療法学科 昼間部2年									
授業概要	1. 骨関節系の基礎について知る。 2. 各疾患の病態について知る。 3. 各疾患の理学療法について知る。 4. 各疾患に対する評価から理学療法プログラムまで理解する。 5. 各疾患に対する理学療法を実施できる。									
授業形態	講義：△		演習：○		実習：		実技：△		※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
	○	○				骨関節疾患にかかわる解剖学的知識を整理することができる。				
	○	○				各疾患の病態を理解し、適切な理学療法について説明することができる。				
	○	○	○			各疾患に対する理学療法を安全に実施することができる。				
	○	○				各疾患に対し、的確な評価を挙げ、理学療法プログラムの立案ができるようになる。				
	○	○				ケーススタディを通じ、問題点を把握しその臨床推論過程を整理することができる。				
テキスト・教材 参考図書	1. 標準整形外科 第14版 井樋栄二・吉川秀樹 他 監修 医学書院 2019 2. 理学療法学テキスト 運動器障害理学療法学 加藤浩監修 メジカルビュー社 2020									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	オリエンテーション(骨関節障害の捉え方) 肩関節障害とは 組織損傷と治療の過程					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	2	骨折総論					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	3	上肢の骨折					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	4	下肢の骨折(大腿骨頸部骨折)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	5	下肢の骨折(下腿・足部骨折)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	6	中間テスト					これまでの事業資料を復習しておくこと			
	7	退行性疾患(変形性股関節症)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	8	退行性疾患(変形性膝関節症)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	9	膝関節障害(半月板損傷・前十字靱帯損傷)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	10	肩関節疾患(肩関節周囲炎)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	11	肩関節疾患(腱板断裂)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	12	足関節障害(アキレス腱断裂・足部損傷)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	13	下肢関節機能障害に対する考え方(症例検討)					これまでの事業資料を復習しておくこと			
	14	国家試験対策					これまでの事業資料を復習しておくこと			
	15	国家試験対策					これまでの事業資料を復習しておくこと			
評価方法	(1)中間テストを実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。(3)レポートを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報		知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験	◎		◎						
	中間テスト	◎		◎						
	レポート	◎		○						
履修上の注意										

科目名		骨関節障害Ⅱ									
科目名(英)											
単位数	2単位		時間数	60時間		担当者	筒口さゆり・花田穂積				
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験	理学療法士として病院勤務				
対象学科・学年		理学療法学科 昼間部 2年									
授業概要		本講義では、臨床的に多くみられる体幹機能障害に対する理学療法の考え方を学び、脊髄損傷、関節リウマチの病態理解からADL指導までを学んでいく。体幹機能障害に対する理学療法については実技を主体とし体験を通し、理解を深めていく。									
授業形態		講義：		演習：	○	実習：		実技：	△	※ 主たる形態：○	その他：△
学習目標 (到達目標)		言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
		○	○				体幹機能障害を呈する疾患について理解でき説明できる。				
		○	○		○		体幹機能障害に対する理学療法評価・治療を指導の下で実践できる。				
		○	○				脊髄損傷の病態、合併症のメカニズムを理解し説明できる。				
		○	○		○		脊髄損傷の高位レベルの判断ができ、残存レベル毎のADL指導を実践できる。				
		○	○				関節リウマチの病態、特徴を理解し、ADL指導を実践できる。				
テキスト・教材 参考図書		1. 井桶栄二・吉川秀樹 他編：標準整形外科 第14版. 医学書院 2020 2. その他：授業の中で紹介します									
授業計画		回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
		1	オリエンテーション 体幹機能障害に対する理学療法（疾患：椎間板ヘルニア）					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
		2	体幹機能障害に対する理学療法 （疾患：腰部脊柱管狭窄症・脊椎圧迫骨折 他）					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業資料の復習をしておくこと			
		3	体幹機能障害に対する理学療法（実技）：評価					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業資料の復習をしておくこと			
		4	体幹機能障害に対する理学療法（実技）：治療					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業資料の復習をしておくこと			
		5	体幹機能障害に対する考え方 ケーススタディ					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業資料の復習をしておくこと			
		6	体幹機能障害に対する考え方 ケーススタディ					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業資料の復習をしておくこと			
		7	関節リウマチの病態・臨床症状・治療内容と治療方針					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業資料の復習をしておくこと			
		8	関節リウマチの理学療法の考え方（評価・アプローチ・ADL指導）					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業資料の復習をしておくこと			
		9	脊髄損傷の概要（症状・合併症 など）					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業資料の復習をしておくこと			
		10	脊髄損傷の概要（症状・合併症 など）					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業資料の復習をしておくこと			
		11	四肢麻痺に対する理学療法（評価・アプローチ・ADL指導）					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業資料の復習をしておくこと			
		12	四肢麻痺に対する理学療法（評価・アプローチ・ADL指導）					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業資料の復習をしておくこと			
		13	対麻痺に対する理学療法（評価・アプローチ・ADL指導）					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業資料の復習をしておくこと			
		14	対麻痺に対する理学療法（評価・アプローチ・ADL指導・歩行指導）					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業資料の復習をしておくこと			
		15	まとめ					これまでの学習内容のまとめとして再度復習を行います。配布資料を持参してください。			
評価方法		(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)小テストを5回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
		定期試験(筆記)	◎	○				80%			
		小テスト	○	○		○		20%			
履修上の注意											

科目名	内部障害Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	60時間		担当者	西村天利・山口寿・木村孝
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験	理学療法士として病院勤務
対象学科・学年	理学療法学科 昼間部 2年						
授業概要	循環・代謝及び腎臓分野における疾患は、単独または合併症として理学療法分野で介入する機会が多くなっている。それぞれの解剖学及び機能を理解し、指標となる基準やリスク管理を理解・説明できる。そのことを踏まえて代表的な理学療法の介入について説明することを目標とする。						
授業形態	講義：		演習：	○	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		内部障害領域において理学療法の変遷を説明できる。	
	○	○				内部障害領域において循環器・代謝疾患の現状を説明することができる。	
	○	○				内部障害により起こりうる身体機能、日常生活の問題について説明できる。	
	○	○				循環器・代謝理学療法の実施過程を説明することができる。	
	○	○		○		チーム医療において理学療法士に求められる役割を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	15レクチャーシリーズ理学療法テキスト「内部障害理学療法循環・代謝 第2版」 石川朗＋木村雅彦 編						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーションと 心臓の構造と機能□				指定範囲の教科書の予習・復習	
	2	心不全の病態・検査と治療について□				指定範囲の教科書の予習・復習	
	3	臨床に必要な心不全の知識				授業の質問の投稿と授業中にやり残した課題 今回の課題の復習	
	4	運動耐容能と心電図を利用した評価について				指定範囲の教科書の予習・復習	
	5	心臓リハビリテーションの実際				授業の質問の投稿と授業中にやり残した課題 今回の課題の復習	
	6	心電図基本的知識と不整脈の理解				指定範囲の教科書の予習・復習	
	7	提示した症例についてまとめてみよう				授業の質問の投稿と授業中にやり残した課題 今回の課題の復習	
	8	中間テスト					
	9	腎臓リハビリテーションの実際				授業の質問の投稿と授業中にやり残した課題 今回の課題の復習	
	10	腎臓の構造・作用と疾患について				指定範囲の教科書の予習・復習	
	11	提示した症例についてまとめてみよう				授業の質問の投稿と授業中にやり残した課題 今回の課題の復習	
	12	代謝に関する内臓器官の作用について				指定範囲の教科書の予習・復習	
	13	糖尿病の理学療法の実際				授業の質問の投稿と授業中にやり残した課題 今回の課題の復習	
	14	まとめ・授業内評価					
	15	提示した症例についてまとめてみよう				授業の質問の投稿と授業中にやり残した課題 今回の課題の復習	
評価方法	(1)授業中にて課題を実施する。(2)定期試験(筆記)・中間試験を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。□						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験・ 中間試験	◎	◎				40%
	課題	◎	◎		○		60%
履修上の注意	授業は、内部教員・外部講師にて交互に実施予定です。また外部講師の授業はGoogle classroomを利用して実施。欠席した場合でも、Google classroom上で個人で課題の遂行を全て行って下さい。						

科目名	小児発達障害						
科目名(英)	Childhood Developmental Disorders						
単位数	1単位		時間数	30時間		担当者	刀坂 昌輝
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験	理学療法士として病院勤務
対象学科・学年	理学療法学科 昼間部 2年						
授業概要	小児理学療法の考え方、対象疾患について理解する。特に脳性麻痺を通して、小児の対象者に対する理解を深め、理学療法評価、治療までの考え方を学ぶ。						
授業形態	講義：△		演習：○	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		小児理学療法の考え方、対象疾患、評価について説明できる。	
	○	○		○		脳性麻痺の異常発達について説明できる。	
	○	○		○		脳性麻痺の評価と治療について説明できる。	
	○	○		○		症例を通して評価結果をアセスメントできる。	
	○	○		○		二分脊椎、ダウン症などその他の疾患の理学療法について説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	細田多穂・田原弘幸他：小児理学療法学テキスト改訂第3版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション 小児理学療法の考え方				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	2	脳性麻痺の概念・病態について(脳の発達・原始反射)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	3	脳性麻痺のタイプ別特徴について(GMFCSを含む)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	4	脳性麻痺の特異的運動発達について(痙直型について)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	5	脳性麻痺の特異的運動発達について(痙直型四肢麻痺)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	6	脳性麻痺の特異的運動発達について(痙直型両麻痺)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	7	脳性麻痺の特異的運動発達について(アトーゼ型)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	8	脳性麻痺の特異的運動発達について(重症心身障害児とは)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	9	その他の小児疾患について(二分脊椎・ダウン症)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	10	中間評価				これまでの学習を振り返り、総復習をしておくこと。	
	11	治療と評価の考え方				考えられる評価を列挙すること。	
	12	ケーススタディ①脳性麻痺の評価				評価結果から解釈を考えておくこと。	
	13	ケーススタディ②脳性麻痺の評価と解釈				解釈から問題点と治療を考えておくこと。	
	14	ケーススタディ③脳性麻痺の治療の考え方				全体のまとめをつくること。	
	15	ポートフォリオとリハ実施計画書				提出	
評価方法	(1)授業の中で中間テストを実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				50%
	レポート(ポートフォリオ)	○	◎				20%
	中間テスト	◎	○				30%
履修上の注意							

科目名		地域理学療法学						
科目名(英)								
単位数	2単位		時間数	60時間		担当者	伊東 浩樹	
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験	理学療法士として社会福祉法人に勤務	
対象学科・学年		理学療法学科 昼間部 2年						
授業概要		地域包括ケアシステムの施行により、医療資格者は病院や施設だけでなく在宅＝地域での生活をいかに支援していくかが重要である。その中で地域理学療法学は、地域リハビリテーションサービスの重要なサービスの一つとして位置づけられている。理学療法士の地域での役割について多様な視点から学んでいく。						
授業形態		講義:		演習:	○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○			○		地域医療とリハビリテーションを歴史的背景を踏まえて概念を知る。		
	○	○		○		地域医療とリハビリテーションの中の地域理学療法についてその役割と専門性について説明できる		
	○	○		○		地域医療とリハビリテーションサービスの一つである社会制度・社会資源について説明できる		
	○	○		○		地域医療とリハビリテーション・地域理学療法の実践について知り、考え実践できる		
テキスト・教材 参考図書		教科書:浅川育世編:ビジュアルレクチャー地域理学療法学. 医歯薬出版株式会社, 2012						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1	オリエンテーションと地域リハビリテーションの概念				教科書内容について、読み返し用語については調べてください。また事前学習にも取り組んでください。		
	2	地域理学療法の概念				教科書内容について、読み返し用語については調べてください。また事前学習にも取り組んでください。		
	3	地域での協働と連携				教科書内容について、読み返し用語については調べてください。また事前学習にも取り組んでください。		
	4	地域理学療法の対象者				教科書内容について、読み返し用語については調べてください。また事前学習にも取り組んでください。		
	5	介護保険制度				教科書内容について、読み返し用語については調べてください。また事前学習にも取り組んでください。		
	6	障害者自立支援法と実際				教科書内容について、読み返し用語については調べてください。また事前学習にも取り組んでください。		
	7	地域における社会資源				教科書内容について、読み返し用語については調べてください。また事前学習にも取り組んでください。		
	8	要介護認定とケアマネジメント				教科書内容について、読み返し用語については調べてください。また事前学習にも取り組んでください。		
	9	介護保険における理学療法				教科書内容について、読み返し用語については調べてください。また事前学習にも取り組んでください。		
	10	特定疾病の特徴と介入への視点				教科書内容について、読み返し用語については調べてください。また事前学習にも取り組んでください。		
	11	地域理学療法(地域在宅支援総論)						
	12	地域理学療法(地域在宅支援各論)						
	13	地域における理学療法の展開 1(実例を用いた活動紹介)						
	14	地域における理学療法の展開 2(実例を用いた活動紹介)						
	15	地域における理学療法の展開 3(実例を用いた活動紹介)						
評価方法	(1)グループ発表を授業毎、合計14回実施した上で総合的に判断する。(2)定期試験(レポート/一部筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	レポート課題	◎	○		◎		40%	
	最終試験(一部筆記)	◎	◎		◎		60%	
履修上の注意								

科目名	評価実習							
科目名(英)	Clinical Practice							
単位数	3単位		時間数	135時間		担当者	理学療法学科教員	
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験	理学療法士として病院勤務	
対象学科・学年	理学療法学科 昼間部 2年							
授業概要	指導・監督の下、これまでに修得した検査・測定技術を駆使し、対象者の障害像を捉える。具体的には、臨床医学、理学療法治療学、日常生活活動学等の知識を基に評価項目を選択し、理学療法評価学等で学んだ問診、情報収集、ROM-T、MMT、感覚検査、動作観察などの基本的な検査・測定を実施する。次に、得られた評価結果に対して解剖学、生理学、運動学、臨床医学、理学療法治療学、日常生活活動学等の知識を基に解釈を行い、機能障害と能力障害の結びつきを理解する。							
授業形態	講義：△		演習：△		実習：○	実技：△	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○			○		知識・技術・人格が理学療法の三本柱であることを深く心に刻み、専門職としての向上・充実を図るための態度を修得できる		
		○	○	○		検査測定の知識や技術を実際の患者に実施できる。		
	○	○				収集した情報および実施した個々の検査結果を基にして患者像を捉え、主要な問題を把握できる。		
テキスト・教材 参考図書								
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示	
	1							
	2							
	3							
	4							
	5							
	6	・評価実習事前セミナー：2024年1月29日(月)～2月3日(土) OSCEによる診療技能練習と試験を実施 国家試験問題を利用した知識面の整理と実力テストの実施 コミュニケーション講座によるソーシャルスキル向上 メンタルケア講座を実施						
	7							
	8							
	9	・評価実習：2024年2月5日～2月24日(土) ※施設の就業規定に応じて3週間実施(5日/週を基本とする)						
	10							
	11	・評価実習事後セミナー：2024年2月26日～3月2日(土) 各施設で学んだ事、担当症例のまとめなどを作成し、発表会を実施						
	12							
	13							
	14							
	15							
評価方法	・評価実習事前セミナー：事前OSCEおよび実力テストなどを実施 ・評価実習：実習状況報告書など ・評価実習事後セミナー：実習課題提出と発表会を実施 成績評価基準は上記成績を総合的に判定して、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	実習状況報告書	◎	◎	◎	◎		60%	
	事前セミナー	◎	◎	◎	◎		20%	
	事後セミナー	◎	◎		◎		20%	
履修上の注意								